

日本の観測所めぐり (8)

京都大学上松天体赤外線観測室

上松天体赤外線望遠鏡は1973年に科学研究費一般Aで建設されたもので、京都大学理学部(物理学第2教室宇宙線研究室)に属しています。1974年の観測開始から現在まで12年間ずっと稼動しつづけています。

現在の上松の主な研究テーマは

- i) 原始星, 暗黒星雲の幾何学的構造 (掃天および偏光)
- ii) 星の生成領域における物理・化学過程 (分光および偏光)

です。この研究に加えて

- iii) 機器開発のための基礎実験
- iv) 大学院教育 (にも供されています。)

現在、ここで使用されている観測器は次の6台です。

- ㊸ 汎用(広帯域; J.H.K.L.M+狭帯域(2.1~2.5  $\mu\text{m}$ ;  $\lambda/4\lambda\sim 50$ ) 測光器
- ㊹ 2色(J/H-K) 掃天測光器
- ㊺ ファブリ・ペロー赤外分光器(2.1~2.5  $\mu\text{m}$ ; R~10<sup>4</sup>)
- ㊻㊼ 冷却グレーティング分光器(名大, 京大 各1; R~100~1500)
- ㊽ 赤外偏光計

この12年間に、上松は30篇の論文を内外の学術雑誌に発表し、8篇の学位論文(京大6, 東北大1, 名大1)を提出しました。ここで、学位をとった人は、名大理, アシアゴ天文台, セロトロロ天文台, 東京天文台, ハワイ大学天文学研究所と、各地で働いています。

さて、上松の activity は主として、大学院の人たちによって、支えられています。天気の良い春から夏は、京都で、観測機器の製作、整備、較正、あるいは検出器の基礎テスト、論文かき、あるいは、来シーズンの観測プランの準備をし、天気よくなる秋から冬にかけて、上松に集中する——というのが私たちの一年間のこよみです。こんな訳で6~9月は観測室はほとんど閉鎖しています。ほぼ常時いるのは10~1月の4ヶ月間です。

誰か現地にいれば、見学できますが、事前に電話で京都の研究室(075)-701-5377 か上松の観測室(02645)-2-4310 に電話される方がよい。観測室の所在地は長野県木曾郡上松町で、名古屋市と松本市の間にあります。国鉄・中央西線、あるいは国道19号線上松町まで来て、それから西側(中央アルプスと反対側)の赤沢美林の方へ、約10km入ることになります。むしろ木曾観測所(シュミット望遠鏡)の南へ、約2kmの所といった方がわかりやすいでしょう。名古屋から車で3時間、松本から2時間です。

見学されたら、驚かれ、もしかするとがっかりされるかもしれません。ドームといい宿舎といい、“天文台のイメージ”とは遠く映るでしょう。“物事を始め、なしとげる”ということ、そして科学を行なうことの一面を知っていただけるならうれしく思います。

(佐藤修二)

☆ ☆

☆ ☆ ☆

